



図書館だより



NO.9

2014/01/07

ノートルダム学院小学校図書館

明けましておめでとうございます
今年もすてきな本との出会いが
ありますように



お正月になると急に人気者になるのが、その年の”干支”。

人は生まれた年のえとに似るとよく言われます。ウマ年生まれの人は、「明るく、頭の回転がはやい」、「人の世話を苦にせず、良くつくすので感謝される」、「失敗してもくよくよせず、きりかえが早い」そうです。ウマは古くから神さまの乗り物として神事などに使われていました。天変地異があった時は、神社に神馬を奉納したり、木馬や絵馬を捧げたりして、安全を祈りました。8月1日（八朔の日）に行われる行事に「馬節句」があります。香川県では初めて男の子が生まれた家は米の粉でいろいろの馬の形を作って飾ります。広島県福山市では男の子の家では団子で作った張子の馬を、女の子の家では切紙の人形を飾るのです。福岡県遠賀郡では、初孫ができた家では、馬団子という小豆の粉をまぶした大きな団子を作って祝います。日本の競馬は、神馬をきそわせて、その年の農作物の出来をうらなったのが始まりだといわれています。



—ことわざ「馬」—

- 馬が合う：馬とその乗り手の呼吸がぴったり合うこと
- 馬がいなければ天気がよくなる。
- 馬に出る：やじ馬となって見物すること。
- 馬に乗るとも口車に乗るな：うまい話には気をつけよ。
- 馬の糞を踏むと背が高くなる。
- 馬の糞を踏むとよく走れるようになる。
- 馬の耳に念仏：人の意見を上の空で聞き流しにすること。



—馬が登場する話—

- 「たまごから生まれたウマ」谷真介 倭成出版社
- 「黒潮牧場の馬です」菊池俊 新日本出版社
- 「馬と兵士」野坂昭如 汐文社
- 「ガラスのうま」征矢清 偕成社
- 「スーホーの白い馬」大塚勇三 福音館書店
- 「すべての美しい馬」コーマック・マッカーシー 早川書房
- 「戦火の馬」マイケル・モーパゴ 評論社
- 「シャーロットとしろいうま」ルース・クラウス 富山房
- 「バレエをおどりたかった馬」H・ストルテンベルグ 福音館書店
- 「白い馬をさがせ」ディック・キングスミス 童話屋 —ほか—

